

昭和39年度 和歌山県文化賞

はま ぐち え しょう
浜 口 恵 璋 (号 翠村又は梧陰)

住 所：和歌山県有田郡広川町

出 身 地：奈良県宇陀郡室生村

生 年：明治7年

■職業

安楽寺住職

文化財研究

文献所蔵

◎業績及び経歴

明治30年1月12日より明治43年1月まで耐久学舎教員。

明治43年1月12日本願寺立仏教大学(大学林改称)に聘せられ、大辞彙の編纂に従事する。真宗大辞彙は真宗の写を仏教に改め、東京富山房より出版せるものである。しかしこの間、広村安楽寺を管理することにはかわりなかった。

仏教大辞彙編纂終了後、大正5年より大正9年まで再び私立耐久中学校の国語、漢文ならびに歴史科等の教師として教育に従事しその後は各地を巡回布教に従事した。

明治天皇崩御後和歌山県に設けられた仏教各宗協同会の幹事として活躍、出獄人保護事業(司法保護)に従事し、有田郡西地区での活躍をはじめ司法保護事業に活躍、遠くは東京、仙台、香川、京都、大阪まで講演した。

又、本派、本願寺より多年宗門に尽したことで堂班直座六等を授与されている。

翁の一生は殆んど、仏典や有田地方の文化財、郷在史の研究に尽し、その研究記録を多く残す。又著書も『七里和上の言行録』、『心霊上の修養』、『青年の宗教』等多数にのぼっている。なお約三万数千冊の蔵書も有名である。現在これらの蔵書資料等は一般の閲覧に供されるよう有田地方の有志により文庫の建設が推進され、その功績は高く評価されている。

昭和36年から広川町文化財保護審議会長として活躍、中紀文化財保護審議会の設立にも貢献した。